

たけふ

JFグループ兵庫



特集 JFグループ兵庫水産政策協議会が 水産施策の推進に係る政策を提案

CONTENTS

- 2 政策提案会
- 4 大輪田塾 県外視察研修
- 5 マダコ資源回復へ向けた種苗放流実施／
今年も開催!2025年マリンスクール
- 6 仮屋漁協青壮年部水産教室／
令和7年度 漁船保険事務研修会
- 7 浜のいきいきfamily
- 8 ようそろ／浜のイベントカレンダー
- 9 兵庫JCC通信／協同組合人養成講座の開催
- 10 SEATCLUB魚介レシピ

8月1日(金)兵庫県学校厚生会館において、兵庫県農林水産部主催の「令和8年度農林水産施策の推進に係る水産政策協議会から田沼政男会長はじめ委員および幹事21名が出席し、同協議会からの政策提案について意見
今回の提案は、今後県において施策化に向けた検討が行われ、令和8年度予算が成立する来年3月にその結果

政策提案会」が開催されました。提案会には県から守本真一農林水産部長はじめ幹部職員15名、JFグループ兵庫
交換を行いました。
が回答される予定です。

令和8年度農林水産施策等の推進に係る政策提案書（抜粋）

1 豊かな海の早期実現に向けた取組について

① 豊かな海の実現に向けた要望について

1.工場・下水処理場における通年での栄養塩類増加措置等の実施について

現在「兵庫県栄養塩類管理計画」に基づき増加運転が行われ、近隣の漁場ではノリの色落ち軽減などの良い効果がみられています。
しかしながら、未だ県条例に基づく水質目標値にある下限値（全窒素0.2mg/L）を多くの海域で下回っている状況であり、豊かな海の実現に向けて、引き続き、通年での栄養塩類増加措置の実施や増加措置実施者の追加など、陸域からの栄養塩類供給の増加をお願いします。

また、令和7年2月に環境省「水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する告示」等がなされ、適時適切な類型の見直し等を行えるよう改正されたことを受け、今後地域の実情に応じた水質の在り方の検討をお願いします。

2.大阪湾奥部の流況改善等について

大阪湾奥部で滞留している豊富な栄養塩類が湾全体にいきわたるよう、流況改善や排水の沖合放流、護岸・防波堤の改良などの施策の実施をお願いします。

3.漁業者が取り組む活動への支援について

漁業者が主体となって実施する、「海底耕耘」「ため池のかいぼり」「海底への施肥」「牡蠣殻敷設」等の取組みが拡大するよう、県での予算確保に加え、市町での予算確保についても働きかけをお願いします。

また、資源の減少が極めて顕著なイカナゴについては、夏眠前の肥満度向上を図るための肥育試験なども開始しており、これらの新たな取組みに対するご支援・ご協力をお願いします。

② 水産技術センターの研究体制や予算の拡大について

高水温耐性等の海苔の品種開発、下水処理場における栄養塩類増加運転や施肥等の効果調査、新たな養殖の可能性など、水産技術センターの研究は豊かな海づくりや水産物の安定供給の一翼を担うものであり、研究員や予算を確保・拡大し、研究体制の充実をお願いします。

③ 栽培漁業の推進について

マダコの種苗生産の早期事業化をはじめ、栽培対象魚種の育成・放流技術の確立など、豊かな海づくりに向けた栽培漁業の取組みを推進するため、一層の推進と体制充実を図っていただきますようお願いします。

2 漁業者等の経営安定化に対応した支援について

① 物価高騰対策等の継続支援について

国際情勢の緊迫等に伴う物価高騰が続く中で、漁業者は魚価への転嫁が出来ないことから漁業経営は不安定な状況となっています。
つきましては、現在実施されている、「漁業コスト削減対策」、「漁業収入安定対策」の継続をお願いします。

② 水産物の適正な名称表示について

一昨年に北海道沿岸で大量発生したオオズワイガニについては、不適正な名称での流通により、消費者に大きな混乱をもたらしました。

流通業者に対して関係省庁及び県から指導が行われましたが、今後も継続的に11月6日のズワイガニ漁の解禁前を中心に食品表示基準の啓発、指導の徹底をお願いします。

③ 北朝鮮によるミサイル発射に対する漁業者の安全確保について

北朝鮮によるミサイルの発射は2023年には19回、2024年には22回の頻度で繰り返され、但馬地域の漁業者は常に危険と隣り合わせの状態での操業を余儀なくされています。また、新日韓漁業協定により設定された暫定水域は設定当初から韓国漁船に独占されたままとなっています。

つきましては、引き続き国への強い働きかけをしていただき、当該地区の漁業者が安全で安心して操業できる体制を確保できるようお願いします。

3 食料供給産業としての水産物の安定供給について

① 災害に強い漁港・水産物流通施設への支援について

近年では想定を超える規模の地震や津波、高潮、高波、暴風が発生しており、漁港施設や漁船への被害が懸念されています。
つきましては、漁港施設の強靱化、耐震化など、災害に強い水産基盤強化に加え、漁船の大型化や漁港の再編による漁港整備に対する支援をお願いします。

また、安全・安心な水産物を供給するため、水産物産地市場をはじめとする漁港・加工施設における衛生管理の高度化に向けた支援をお願いします。

② 学校給食等への食材提供について

令和2・3年度に学校給食をはじめとする販売促進を行っていただいた結果、『地産地消』による食育への効果が非常に大きいことから、継続的な食材提供を求める声が学校側から多数寄せられています。

今後も学校給食等への食材提供について、継続した農林水産予算での措置に加え、教育委員会等への働きかけについて要望します。

③ 海業等の取組への支援について

漁村では人口減少や高齢化の進行等により地域の活力が低下しており、地域の所得向上や雇用機会の確保を図ることが急務となっています。

また、海洋環境の変化により、従来からの主要な漁獲対象魚種が激減するなど、漁港や漁業の在り方を見直す必要が生じています。

つきましては、漁村や漁港の賑わいを創出する「海業」の取組や、低利用となった施設を活用した陸上養殖をはじめ、新たな魚種・漁場への開拓に対する支援・指導をお願いします。

当日は、JF側からマダコの放流適地の把握やニジマス養殖等による沿岸漁業の複業化など、政策提案書に関する具体的な補足説明をするともに、浚渫砂を利用した覆砂による漁場整備という新たな提案も行い、これらについて県当局と活発に意見交換を行いました。



主催者挨拶をする守本部長



謝辞を述べる田沼会長



提案会の様子

出席者（敬称略）

【兵庫県】（農林水産部）守本部長、呉田次長、宮島次長、望月水産漁港課長、小寺漁港整備官、兼松総合農政課長、磯崎流通戦略課長ほか4名、（環境部・土木部）内田豊かな海再生推進官ほか1名、（農林水産技術総合センター）菅村所長・山下水産技術センター所長

【JFグループ兵庫水産政策協議会】 JF兵庫漁連田沼会長、JFなぎさ信漁連・日本漁船保険組合但馬支所村瀬委員長、兵庫県漁業共済組合川越組合長、共水連兵庫県事務所戎本推進本部長、全国漁業信用基金協会兵庫支所・日本漁船保険組合兵庫県内海支所小磯委員長、（公財）ひょうご豊かな海づくり協会・（一財）兵庫県水産振興基金山田理事長、（一社）播磨漁友会大河会長、（一社）淡路水交会片山会長ほか13名

令和7年度 県外現場研修開催

今年度の大輪田塾現場研修は20周年を記念して、7月28日(月)～29日(火)の2日間、塾生をはじめ計13名がJF全漁連と豊洲市場を訪問しました。



7月28日(月)

JF全漁連を訪問し、坂本会長の挨拶の後、三浦常務より「日本の漁業の現状と漁業のポテンシャルを活かす道」、石川常務から「全漁連の概要について」、また資料課 向井副調査役より「豊かな海づくりの提案JFシェルナース・貝藻くんの取組み」について、それぞれの講義を受けました。温暖化により取れる魚種や地域が変わりつつあることや、サンマやスルメ、サケといった大量に漁獲されていたものが激減している現状について説明を受けました。また、シェルナース(牡蠣殻を使った大型人工漁礁)による全国の取組みや効果、貝藻くん(重量60kgの小型人工漁礁)との使い分けなどの説明を受けました。質疑応答では、シェルナースの設置場所等に関する意見や、貝藻くんが稚魚生産したナマコや稚ダコ放流時の隠れ家に最適との意見がでました。



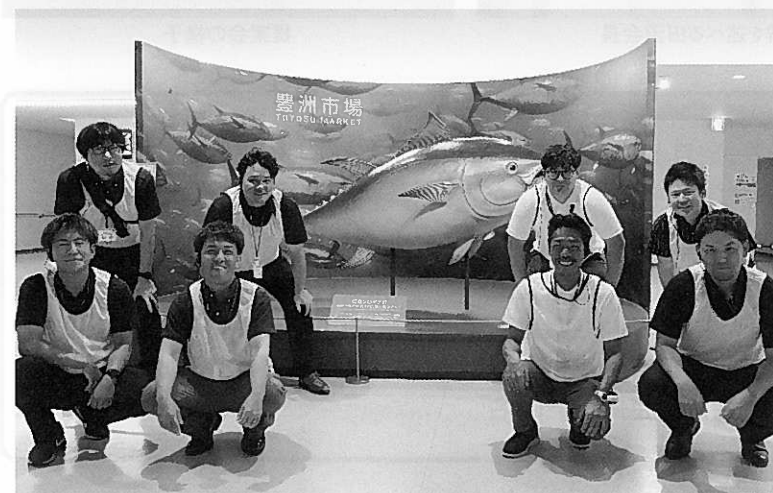
JF全漁連の講義

7月29日(火)

兵庫県水産若手職員と合同で豊洲市場を訪問し、まずは東京都水産物卸売市場協会 浦和専務より「豊洲市場の設備と機能の紹介」の説明を受けた後、意見交換を行いました。豊洲市場の特徴として施設全体が閉鎖型であるため、夏場の高温や風雨などから商品を守り、産地から市場そして小売店へと商品の温度を一定に保ったまま流通させるコールドチェーンが徹底され、以前より格段に鮮度が長持ちし、輸出した際にも鮮度がより保てるようになった。さらに、築地市場に比べて約1.7倍の敷地面積になり手狭な状況が解消されスムーズな物流が可能になったと説明を受けました。

その後、都の職員である須永課長代理の立会いのもと、水産卸売市場棟と一般の方は立ち入ることのできない仲卸棟に入場しました。輸送用ターレが行き交う市場の日常は非常に活気があり、見応えがありました。

今回の研修では、幅広く知識を深めることができ、またJF全漁連との懇親会では大輪田塾生とJF全漁連職員の間で活発な意見交換もあり、非常に実りのある現場研修になりました。この度の研修で、お世話になりました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



大輪田塾生(19、20期生)



説明と意見交換



冷凍マグロのセリ場



水産仲卸棟見学

マダコ資源回復へ向けた種苗放流を実施

～県内3地点で計約5,700匹を放流～

兵庫県 水産漁港課 漁政班

県では、公益財団法人ひょうご豊かな海づくり協会(以下、協会)と連携し、減少傾向にあるマダコ資源の回復を目的として、令和5年度よりマダコ種苗の量産技術開発に取り組んでいます。

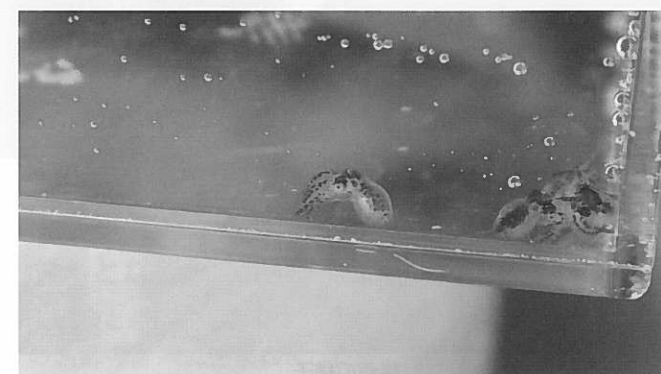
昨年の江井島海岸での稚ダコ2,500匹の放流に続き、今年度は、1万匹の放流を目標に掲げ、生産試験に取り組みました。また、放流後の生存率向上を図るため、着底基質としてノリ網やカキ殻を用いる新たな放流手法も考案しました。

令和7年7月29日に淡路市江井漁港および釜口地先、8月1日には明石市大蔵海岸海水浴場にて放流を実施しました。協会の尽力により種苗生産は当初順調に進んでいましたが、放流直前に原因不明の大きな減耗が発生し、最終的な放流数は淡路市の2地点で約1,700匹、明石市で4,000

匹となりました。

大蔵海岸での放流は、報道機関に公開のうえ実施しました。当日は明石市漁業組合連合会の橋本会長、西尾副会長、松本理事らにもご参加いただき、無事に放流を終えることができました。多くの記者も取材に訪れ、取組に対する関心の高さがうかがえました。また、江井、釜口地先での放流も、東浦及び西浦栽培漁業推進協議会のご協力のもと、円滑に作業を進めることができました。

今後は、量産技術のさらなる向上に加え、生残率を高める放流方法の検討や、放流適地の条件解明など、課題の克服に向けて関係者が一丸となって取り組み、本格的な種苗放流の実現を目指してまいります。



放流した稚ダコ



大蔵海岸での放流の様子

今年も開催! 2025年マリンスクール JF兵庫漁連 SEAT-CLUB

コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連による協同組合の連携活動として毎年実施しているマリンスクール(2コース)が今年も開催され、参加した親子連れ、中・高・大学生(112人)は楽しく漁業や県内産水産物について学びました。

第43回となるJF神戸市コース(7月24～25日)では「せり市」を見学したり、「魚のつかみ取り」、「ヒラメ稚魚の放流」、「タコの塩もみ」などを体験したほか、兵庫の漁業と環境のつながりを学習しました。また、稚魚の放流では、神戸市立栽培漁業センターの協力で魚を増やすことの大切さを学びました。

一方、第15回目となるJF兵庫漁連SEAT-CLUBコース(8

月5～6日)では「干しダコ作り」や「アジの三枚おろし」、「チリメンモンスター探し」、「兵庫の漁業と環境の学習」に挑戦しました。みなさん、普段あまり魚にふれる機会がないのか、どの内容も親子で一緒に目を輝かせて取り組んでいました。

どちらのコースも、大盛況のうちに終了し、とても楽しんでもらえたようです。

JF兵庫漁連では、このマリンスクールを通して、漁業や水産物をより広く身近に感じてもらえるよう、今後とも取り組んでいきたいと考えています。



放流



タッチプール



8月5日ご参加いただいたみなさま

仮屋漁協青壮年部 水産教室開催

JF仮屋

7月8日(火)の午前9時から、仮屋4Hクラブ主催で、学習小学校の5年生48名を対象に、稚魚の放流やタッチプールなどを体験できる水産教室を開催しました。

まず、仮屋荷揚場に設けられたタッチプールでは、タイ、エビ、タコ、ノソ(サメの一種)などの様々な魚介類を用意し、児童たちが実際に触れ合える機会を作りました。児童たちは手に取ったり触ったりして、大はしゃぎでした。特に大きなノソは人気で、持てた子どもたちはとても喜んでいました。

次に、ヒラメの稚魚を放流しました。子どもたちは、仮屋漁港内の岸壁から「大きくなってね」と声をかけながら、稚魚を海に放流しました。

その後、場所を移動して、漁業についての勉強会を行いました。兵庫県で行われている漁業や、仮屋の漁業について学びました。また、仮屋4Hクラブが取り組んでいる海底耕耘や、



ヒラメ稚魚の放流

施肥(鶏糞まき)についても学びを深めました。

この事業の醍醐味は、子どもたちが生きている魚に触れて、はしゃいでいる姿を見られることです。それが何よりの喜びであり、楽しみです。

今後も、魚と触れ合える機会がこの地域の良い点だと考えています。これからも、漁業に携わる体験ができる機会を作り続けていきたいです。



タッチプール



講義の様子

令和7年度 漁船保険事務研修会 開催

日本漁船保険組合 兵庫県内海支所

日本漁船保険組合 兵庫県内海支所は、令和7年度漁船保険事務研修会を7月8日(火)神戸市内のホテルで開催し、管内35漁業協同組合の組合長、担当役職員をはじめ、県市町担当係官、系統団体代表者等約100余名が参加しました。

初めに、主催者挨拶として小磯富男運営委員長より主催者挨拶、兵庫県農林水産部水産漁港課望月松寿課長、兵庫県漁業協同組合連合会会田沼政男会長来賓挨拶に続いて、無事故漁船所有者等表彰授与伝達式が行われ、水産庁

長官による無事故漁船所有者等表彰の部で育波浦漁業協同組合所属「真輝丸」(使用者:片山守組合長)への水産庁長官表彰をはじめ日本漁船保険組合会長表彰として17隻の表彰が行われました。

引き続いて、令和6年度の事業概況報告並びに令和7年度事業計画等について事務局から説明を行いました。

最後に山田智昭総代が閉会の挨拶を行い、事務研修会は盛会の内に終了いたしました。



小磯運営委員長挨拶



賞状授与伝達式

浜のいきいきfamily

浜で活躍する漁業者とその家族を紹介するコーナー。
表紙に登場していただいたご家族を紹介します。今回は、JF仮屋の津國さんご一家です!



津國さんご一家: 津國 和哉さん、公美代さん、菜歩美さん、宏哉くん、建哉くん

なんとなく漁師に

颯爽と船から登場してきた和哉さん。古くから続く淡路島の漁師の家系に生まれましたが、高校卒業後は大阪の学校で勉強をし、神戸で大型車の整備の仕事に就きました。数年後、身体を壊した為、淡路に戻り、なんとなく家業を手伝ううちに25歳で漁師の道へ。現在は、15年前に新造船した“相棒の戎丸”と一緒に底曳き網漁で頑張っています。

島から島へ

とても明るく物おじしない公美代さんは、奄美諸島の徳之島出身。大学進学で一人大阪に出てきて寮生活し、関西で就職。和哉さんとは共通の友人を通して知り合い、出会いから3か月のスピード婚。結婚を機に、仕事を辞めて淡路島へ。漁師の妻として、船が戻ると荷揚げなど人手不足だった事もあり、家業を手伝っていたそうです。現在は企業でお仕事をされています。和哉さんの協力もあり、子育てと仕事の二刀流で頑張っています。

生き物大好き 3きょうだい

長女の菜歩美さんは小学3年生。バレーボール・ピアノ・書道・水泳等色々な習い事をしています。照れながらも、今はネイリストに憧れていると教えてくれました。長男の宏哉くんは小学2年生。“家族に美味しい魚を食べてもらいたい!”という想いから、将来はお父さんみたいな漁師さんになりたいそうです。【拓水821号P8参照】次男の建哉くんは元気いっぱいの3歳。タコやイカ、透明の小さなお魚が大好きと笑顔で教えてくれました。みんな生き物が大好きで、船のいけすの中の鰐・タコ・エビを上手にすくって見せてくれました。

予想通り?! 津國家の噂話

登場から“何か楽しい事が聞けるかもしれない?!”予感の中! お話が進むと出るわ、出るわ…。

その1. 大手企業のカレンダーに掲載された!

→15年前、相棒戎丸の新造船の際、大手企業の広報誌の取材を受け、カレンダーにも掲載された。しかしそのカレンダーを本人は見えていないとのこと。…誰か持っている人いませんか?

その2. 『新婚さんいらっしゃい!』に出た!!

→10年前、淡路島収録の際に出場! 面白トークで当時桂三枝氏のお家芸“椅子コケ”を引き出す事に成功♪そして、見事海外旅行をGETしたそうです!…凄すぎる!

その3. 夏は毎週自宅前でBBQ!

→家の前に広がるプライベートビーチでのBBQ。屋外シャワーも完備され、滑り台のエア遊具や包材で自作の(簡易)露天風呂などもあります。…取材前日ももちろんBBQ!

持続可能な漁業へ

漁業が未来にもできる仕事であって欲しいと願う和哉さん。近年は魚が減り、燃料や資材の高騰などで、この10年で地域の漁業者は、自分が漁師になった頃より半分近く減ってきているそうです。こうしたなか、少しでも海の環境が変わる事を願い、海底耕耘などの活動を行っています。この先も漁業が子どもの仕事の選択肢の一つになる様に、頑張っていきたい!と笑顔で語ってくれました。



それぞれの過渡期

大輪田塾16期生(JF一宮町) 大塚 将太



この度、「ようそろ」を書かせていただくことになりました、一宮漁業協同組合の大塚と申します。

夏は底曳き網漁、冬は海苔養殖を父と叔父の3人で営んでおります。

海苔養殖においては、兵庫県が3年連続日本一となり、今漁期に至っては各漁協過去最高の水揚げが記録されたのではないのでしょうか。しかしながら、我々の夏の汽船漁業のように年々漁獲量が落ちる中、海苔養殖もいつまでも右肩上がりな訳もなく、漁師の在り方も過渡期を迎えているのかなと日々実感しています。

我々世代の課題としては、「経営管理」と「持続可能な海づくり」の2点が特に急務だと感じています。まだまだ世襲制が根強く残る中、どのタイミングで経営権を次世代が引き

継ぐのか、海上という特殊な労働環境だからこそその親世代の引き際など、我々世代で悩んでいる人も多いのではないかと思います。そして次世代はその受け取った経営権をしっかりと管理し、その次の世代に引き継いでいかなければいけません。何よりその経営を各々が手探りでやらなければならない難しさ。そこで大事になってくるのが世代間交流、県や漁連と情報交換をする事なのではないかと思います。その点で大輪田塾はこれ以上ない最適な環境だったと改めて実感しています。

持続可能な海づくりにおいては、現状の瀬戸内海における環境に対し、我々の職場である海を使えばなしの漁師、限りある資源をただ獲るだけの漁師、このような漁師になってはいけないと思います。豊かな海づくり・里海づくりに興味を持ち、活動する事が我々が育った海に対し、我々が出来る恩返しの一つの形と捉えています。兵庫県は豊かな海づくりの活動が積極的であり、他県からも注目されていると実感しています。年をおうごとにその活動は広範囲になり、内容もより良いものになっていると思います。

しかしここで一つ気になるのが、豊かな海づくりの作業が漁師達にとって過度な負担が生じていないか。本当に持続可能な内容のものなのか。各漁業の操業がある中でそれに支障が出ていないか。

あくまで個人的な見解ですが、この豊かな海づくりは中長期計画で動いており、決してすぐに結果は出ないものと思っています。一切の結果を見ることができずに漁師人生を終えるかもしれません。しかし、それでも継続はしなければいけません。継続する上でのモチベーションとして「次世代の為に」では続かないでしょう。

自分達にとって過度な負担なく、そして欲を言えば楽しんでやれるような活動ができれば、最高の形の一つなんじゃないかと思います。

自分のやれる範囲を忖度無しに慎重に判断し、取り組むことが持続可能な豊かな海づくりにおいて大事な目線かと思っています。経営管理にしろ、持続可能な豊かな海づくりの実現にしろ、とにかく仲間が必要です。ここ無くしては何もできません。

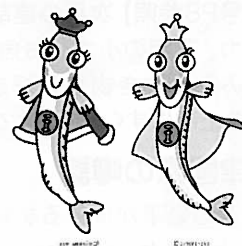
世代を超え、漁協を超え、県や漁連、関係団体と少しでも交わり、仲間を増やすことが大切であり、課題解決の糸口になると思います。こんな私ですが、どこかでお会いした時はどうぞよろしくお願い致します。

浜のイベントカレンダー

開催日時	イベント名	開催場所	主催者
毎週土曜日 13:30～	土曜市	垂水漁港荷捌所	JF神戸市
9月13日(土) 10:00～	魚のつかみどり体験	道の駅 みつ	たつの市
9月17日(水) 13:30～	漁業デー	垂水漁港荷捌所	JF神戸市
9月27日(土) 10:00～	朝市	淡路島タコステ内	JF淡路島岩屋 広報部
10月1日(水) 13:30～	漁業デー	垂水漁港荷捌所	JF神戸市

浜の賑わいづくりにご活用下さい。

掲載希望の団体様は兵庫県水産振興基金まで。皆様からのご連絡をお待ちしています。



JA丹波ささやま 当野営農組合 集落の協力で、丹波篠山市の農地とお米を守る

Q1.部会の成り立ちを教えてください

丹波篠山市内では、耕作放棄地の増加によりお米の生産量が年々減少しており、このままでは歴史ある水稻栽培を次世代へ継承できないと考えました。そこで、耕作面積の維持を図ることを目的に、平成24年2月に当野営農組合を設立しました。

Q2.部会員数や方針について教えてください

組合は、50代から70代までの37名で構成されています。個人では買うことが難しい高額なトラクター等の農機を、部会員が費用を出し合って共同で購入し、利用しています。「当野の農地は当野で守る」をモットーに掲げ、市内の耕作放棄地を引き取り、耕作面積を増やしています。

Q3.特徴について教えてください

本組合の耕作面積が広大であることから、草刈りは非農家を含む地域住民に広く協力を呼びかけ、一体となって実施しています。農地を守ることは、地域の景観を守るだけでなく、災害対策にも繋がることを積極的に発信し、地域の皆様の理解と協力を得ています。

Q4.現在、力を入れている取組みについて教えてください

耕作放棄地の増加を防ぐためには、農作業の省力化が必要であると考えています。そこで、組合員以外にも本組合が所持する農機の貸出を行っています。また、特に労力がかかる農作業を中心に委託を受け、既存の農家に少しでも長く農業を続けてもらえるような支援を実施しています。

Q5.今後の目標について教えてください

今後も、組合の力を活かして、耕作面積の維持に努めます。また、農機の貸出や農作業委託を通して、農家を支援し、地域一体となって農地と伝統ある水稻栽培を守っていきたいと考えています。



<https://ja-grp-hyogo.or.jp/>

第24回兵庫県県民生活部と 兵庫県生協連理事会との意見交換会

8月18日に「第24回兵庫県県民生活部と兵庫県生協連理事会との意見交換会」を開催しました。兵庫県行政と日常的な連携を強め、県施策や生協からの意見・要望などの意見交流を目的に、毎年開催しています。

兵庫県生協連理事会から、岩山利久会長のあいさつ、横川誠也理事（コープ自然派兵庫）、坂本安弘理事（神戸大学生協・神戸親和大学生協）、井上徹理事（神戸医療生協）、柏原浩明監事（姫路市民共済生協）が、それぞれ現状と課題について報告しました。

兵庫県からは、県民生活部次長 北茂正様にあいさつをいただき、県民生活部県民躍動課消費政策官 三田晶子様から「安全安心な消費生活の推進」と題して令和7年度の消費者行政についてご説明いただきました。



4つの生協と県から報告があり、意見交換をしました



あいさつをする県民生活部次長 北茂正様

<https://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

協同組合人養成講座 9月講座 9月19日(金)のご案内

開催時間	講座名	講義団体の名称	JF兵庫漁連
13:00～ 16:25	「補助事業等の概要について」 ①水産多面的関連事業の概要 ②もうかる漁業創設支援事業 ③経営体育成総合支援事業 ④外国人技能実習制度・特定技能制度	JF兵庫漁連指導部	講座はWEB受講も可能ですので、多数の方々の参加をお待ちしております。また、会館での参加者による情報交換会では、簡単な食事と飲物を交えての職員間のコミュニケーションが図れますので、会館での受講にも参加下さい。



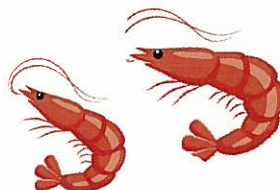
保存版

今が旬の魚介で作る！

簡単!! 魚介レシピ

甘エビの包み蒸し

～海の香りをひと口で～



【作り方】

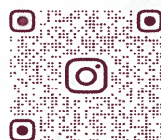
- ① 甘エビは水洗いし、頭と殻を外し、尾は残しておく。
- ② 餃子の皮に、甘エビ（2尾程度）と、斜め切りしたニラをのせ、餃子の皮で包む。
- ③ フライパンに ごま油を熱し、2を並べ、軽く焼き色がつけば、水をいれ、蓋をし蒸し焼きにする。
- ④ 水分が無くなれば、火を止め、少し蒸らして出来上がり。

そのままでも美味しいですが、
お好みでポン酢や味噌ダレをつけて召し上がってください。

【材料】（二人分）

甘エビ …… 12匹程度
 ニラ …… 1/4束
 餃子の皮（大判がよい）… 6枚

ゴマ油 … 小さじ1
 水 … 50ml



Instagram

ひと手間加えて
おしゃれなおつまみに♪

ひょうごのお魚ファンクラブ

SEAT  CLUB



表紙の言葉



つづくに 大輪田塾8期生の津國さんご一家

漁業者とその家族を紹介する【浜のいきいきfamily】今回は、仮屋漁業協同組合の津國さんご一家にお話を伺いました。待ち合わせ時間ぴったりに颯爽と船で登場し、心を掴まれました。とても楽しい津國さんご一家の気になるその内容は、本誌7ページをご覧ください。